

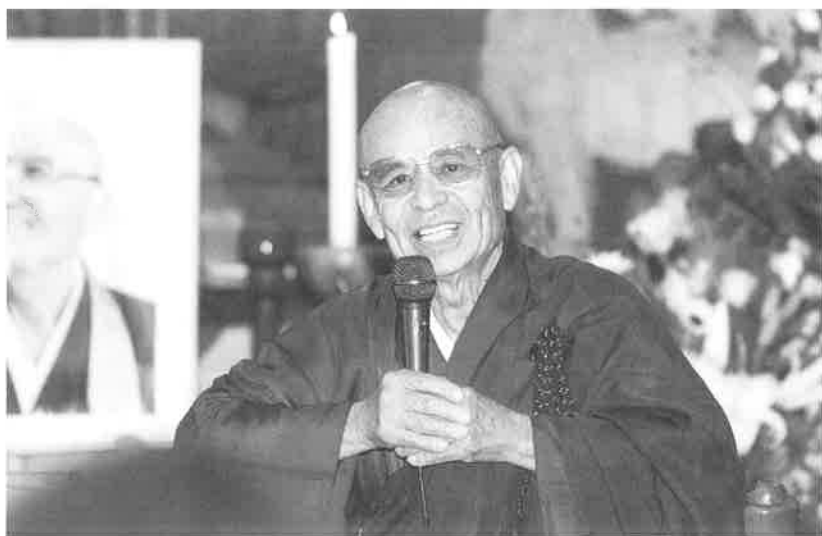
先代方丈さまの遺偈に触れて

—— 秋季彼岸法会 ——

九月二十一日、成寿山善光寺では、秋の彼岸法会が行われました。午前午後の二回にわかれて行われた法要では、大本山總持寺講師で小田原成願寺住職山口晴通老師から、ご法話をいただきました。

祭壇には先代方丈さまの遺偈が飾られ、山口老師の法話のなかで、この遺偈についての解説もしていただきました。ここに要約をご紹介します。





先代方丈さまとは、みなさまもいろいろな思い出があると思いますが、私にもいろいろな思い出があります。方丈さまと一緒に、アメリカのロサンゼルス郊外の、禅センターでお話し上げたことが、いちばん記憶に残っています。

みなさんと私とは、何回かお会いしているので、心のつながりがありますが、場所がアメリカの禅センターとなると、どういう場所か、どういう人にお話をするのか、初対面の人々と、心の共通点を、どのように持とうかと思つて考えたのが、私たち人間が持っている歌でした。

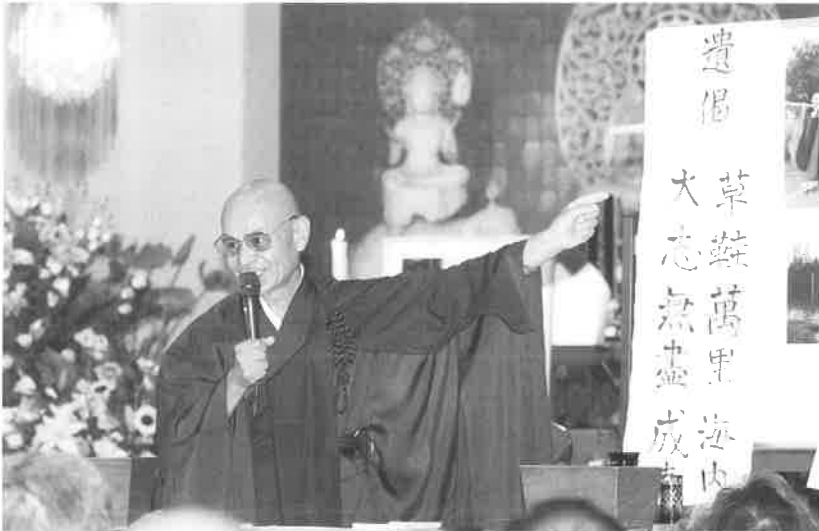
歌は、世界のどんなところにも通じる心です。達磨大師は、自分の法を授ける後継者を決めるのに、四人の弟子に歌をつくらせて、その心を測りました。日本では、天照大神の時代から歌は始まっています。平安時代、長々としたラブレターを書くのではなく、歌を書いて、女の人に届ける。返事があれば、脈があるという大き

なルールがありました。今でも、中国の雲南省の方は、一列に男の方がいて、こちら側に女の方がいて、そして歌と歌を即興的に唄って、そのうちに気に入った同士がグループになり、ある人は結ばれるということのようです。沖縄の方は、沖縄の歌を持っている。それと同じように、どこの民族でも歌を持たない民族はありません。

遺偈の「遺」というのは遺言の「遺」、「偈」は歌のことです。遺偈はご葬儀のときにも、ここにかけてあつたんですが、ご説明しなければ、おわかりにならないかと思ひます。これは本当にありがたい、先代方さまのお言葉です。

草鞋萬里 海内開縁

大志無盡 成寿巖然





(そうあいばんり かいだいえんをひらく
だいしむじん せいじゅげんぜん)

自分は、わらじ履きで、世界中を駆け巡って来た。そして、内外に関わらず縁を開いて来た。私の大きな願いというのは尽きることがないんだ。

そして今も、この成寿山善光寺を、しっかり見守っているのである。

スケールの大きなお言葉です。最近ではこんなにスケールの大きい遺偈はみられません。

先代方丈さまは、一つのことながらあれば、もう次のことさらに、それがもう終わらないうちに、次のことを考えていらっしやいました。私もお供したんですが、スリランカであのような立派な講演をなさいました。続いてアメリカのハーバード、その次にはインドのニューデリー

とご計画がありました。が、残念ですが、スリランカでのお姿が、海外での最後の晴れ姿となりました。

これからもわかるように、禅宗のお坊さんは大切なことをクダクダと言わないんです。この遺偈も、たった十六文字です。この十六字で、ご自分の一生のことを、ピタッと表現するんです。こうするには、平生からよほど研究してないと、こういう言葉を遺すことはできないと思います。

先ほどご紹介がりましたが、今月の六日から、現方丈さまと、檀家総代の東郷さまと、ドイツへ行って参りました。そして、改めて先代方丈さまの、偉大さというものを実感いたしました。

先代方丈さまが、普門寺さまの発展興隆を願って、このお地藏さまと観音さまのお二方の菩薩





さまをご寄贈なさいました。けれども、残念ながら開眼法要、俗にいう、魂入れを済まされることなく、お亡くなりになりました。当然、現方丈さまが、その開眼法要をなさるべきものですが、現方丈さまが謙遜なされ、私にやってもらえないかとのお話があり、私も、先代方丈さまへのご恩返しと思い、方丈さま、東郷先生のお伴をして行って参りました。

私といたしましたは、少しでも先代方丈さまに近づけたらと思い、中国にご一緒したときに、先代方丈さまがくださったお数珠を首にかけ、また、いただいた墨を摺り、それを筆に含ませて、開眼のご供養を申し上げました。先代方丈さまのお袈裟も、私が身につけさせていただきました。先代方丈さまの写真をお飾りして、そして、私なりに一生懸命、開眼供養の文章をつくらせていただきました。その最後の文章には、方丈さまの使われたお言葉を、いろいろとちり

ばめまして歌で結びました。

やがて、善光寺の現方丈さまも、ドイツで行われた儀式、晋山式を、挙行される予定です。



歌をテーマに、アメリカの禅センターでのお話や、大本山總持寺での、石原裕次郎さんの十三回忌法要の山口老師の法話。檀信徒のみなさまも、いつの間にか引き込まれていました。このあと、いつもの法要と同じように、声をあわせてお経を読み、焼香を行いました。そして、法要のあとの客殿では、方丈さま、東郷氏、山口老師の、ドイツ訪問のようすがビデオで流されていきました。「観音さまをお祈りしていると、ちようど空から、三本の光が観音さまを照らしています」。東郷氏と山口老師の楽しいお話に、和やかな時間が過ぎていきました。

